



# 週報

## WEEKLY REPORT 2024-2025



事務所 三重県伊賀市西明寺2756-104 ヒルホテルピア伊賀内  
TEL 0595-24-4650 FAX 0595-24-4656

例会 毎週木曜日 12:30点鐘 第3・第5週例会 18:00点鐘  
ヒルホテルサンピア伊賀 TEL 0595-24-7000

### 2047No.18

URL: <http://www.ict.ne.jp/~u-eastrc/> e-mail: [u-eastrc@ict.ne.jp](mailto:u-eastrc@ict.ne.jp)

本日の例会  
第2048回 2024年12月5日 (木)  
開会点鐘 12:30  
国歌斉唱『君が代』 ロータリーソング『奉仕の理想』  
食事の時間  
出席報告  
会長の時間  
幹事報告  
ニコニコボックスの報告  
委員会報告・同好会報告  
本日の行事 IM報告、職業奉仕セミナー報告  
閉会点鐘 13:30  
例会終了後 『役員選出年次総会』

前回の例会  
第2047回 2024年11月28日 (木)  
開会点鐘 8:00  
ロータリーソング『日も風も星も』  
出席報告  
会長の時間・幹事報告  
  
本日の行事 親睦家族旅行  
閉会点鐘 8:15



出席報告 乾出席委員  
正会員37名 欠席者10名  
(内免除者7名)  
出席率 90.00%



令和6年12月5日

## 劇団四季ミュージカル観劇つれづれ記

『WICKED ～ 誰も知らないもう一つの上野東RC物語』  
～ 何もかも違う会員たちがいる だからクラブは美しい ～

師走も目前の晩秋の11月28日、ラジオから晴れ時々曇り、最高気温15℃、最低気温9℃という天気予報の声が流れた。秋口になっても気温の乱高下により体調管理が難しい時期が続いたが冷え込みも厳しくなりようやくこの時節らしくなってきた。



午前8時よりの早朝例会を手短に済ませ予定より10分早い午



前8時20分、ご家族17名 会員21名の総勢39名を乗せたバスはサンピアを後にした。いつものように我々を安全に快適に運んでくれる三山号が名阪国道に上ると今日の旅行の総支配人である東親睦委員長が颯爽とした出で立ちで行程を説明した。そして黒縁メガネにカンカン帽、ロングコートを着込んだ小林会長が挨拶をされた。「ご家族の皆さん！本日はようこそおいでいただきました。存分に劇団四季ミュージカル“ネイキッド”を楽しみましょう。」いつものように朝から元気な澆瀨とした声が車内に響き渡ったが、×ネイキッド ○ウィキッド であった。やはりバイクのことで頭がいっぱいなのだろうか。

バスは西名阪へと進み、午前9時20分、香芝SAでトイレ休憩を済ませ、本来なら奈良県から大阪府へと阪神高速14号松原線を一気に大阪市内に進むはずであるが喜連瓜破(きれうりわり)の大規模橋梁工事の為、バスは大堀ICで下車し下道を走行した。車内は親睦旅行らしく和やかな雰囲気にも包まれた。小林会長夫妻、木津エレクト夫妻、山森幹事夫妻をはじめご家族を連れ添った会員の方々には座席で肩を寄せ合い若かりし頃を頭に浮かべ仲睦まじくしていた。一人でご参加された方々は皆笑顔で後部のサロンで缶ビールをグイグイ、日本酒をチビリチビリ、おつまみをポリポリしていた。恒岡君、中里君、三山君、(車内が禁煙なら禁酒にせえよと訴えていた)丸山君、伊藤君、(奥様とご息女と参加された)鈴木君もここに居た、絶口調な瀧山サン、中村君……筆者も3～4本、缶ビールを空けたらうか。少し微睡み始めた目で狭い通路を眺めると(普段は支店長だが今日は親睦委員の)神崎君が額に汗して飲食物を詰め込んだダンボール箱を運んでくれていた。いつものながら親睦委員会の皆さんには感謝の一念である。サロン席の方々はそのことを肝に銘じて飲み続けていた。奥様にしばしの別れを告げた松本君が笑顔でサロン席にやって来たことも付け加えておく。

車中の時計に目を向けると……午前10時は過ぎていたろうか？ 東親睦委員長の「皆さーん、着きましたよ！この封筒の中にチケットが入ってるんで絶対に忘れんどいて下さいよ。」という声で目が覚めた。ここは何処だろう？ 西梅田らしい。一行はバスを降り色付き始めた街路樹を横目に見ながら山森幹事の先導で梅田の高層ビル街を10分程歩くと目的地である、“HERBIS PLAZA ENT”に到着した。最上階の7Fに大阪四季劇場が併設されているとういことだ。

館内の時計を見ると、午前10時30分、一行は1時間ほど自由行動を取り、午前11時30分、お待ちかねのランチタイムだ。お腹を空かした一行は、会場である5Fの“LOWRY'S THE PRIME RIB”に集まってきた。温かい雰囲気店内の一番奥の室内に案内された一行はナイフ、フォーク、スプーン、真っ白なお皿、テーブルナプキンが置かれ



た席に腰を下ろした。前菜、パンプキンスープでお腹を落ち着けると、店内に宇宙船のような銀色に輝く食器が運ばれてきた。その中には、まるで山奥で何千年もの間生き続ける大きな古木のようなリブの塊がそびえていた。シェフが手に持つ大きなナイフで手際よくスライスされたリブステーキがコーン、カットピザ、ほうれん草のクリーム煮などの添え物と共に皿に盛られ各席に運ばれてきた。一行は美味しいランチを食べ語り親睦を深めた。セルフサービスのバラエティに富んだデザートを食べ終えた面々は満足げに店を後にし7Fの大阪四季劇場へと足を運んだ。

開演少し前に劇場内に入った。観客は女性8割、男性2割といったところか。筆者は恥ずかしながらこの年になるまでミュージカルというものを観劇したことがない。名作“オズの魔法使い”の前史、外伝というこであるが、まず“オズの魔法使い”自体わかっていない。そんなことに思いを巡らせていると車内でのビールが廻ってきてウトウトしてきたが歌声と音楽の大音響で目が覚めた。それからはこの珠玉のミュージカルに引き込まれて目を離すことができなかった。オズの国に暮らす大学の同級生、エルファバ(後の悪い魔女)とグリンド(後の善い魔女)の対立と友情を基軸に物語は展開していく。オズの国の秘密を知ってしまったエルファバはまっすくな心の持ち主であるが故に反体制派として戦う決意をする。一方、グリンドは善い魔女として国のシンボルに祭り上げられるがまんざらでもない。この二人が心惹かれるフィエロという男性の存在もあって一層対立を深めていくが、オズの国を立て直すという共通の目的により真の友情で結ばれる。そして統治者オズ陛下を追放しグリンドが善い魔女としてオズの国を再編すると国民に宣言するのだった。エルファバの魔法でかかしとなったことで命を救われたフィエロは彼女と共にオズの国を去り二度と戻ることはなかったのである…… エルファバの魔法によって変えられた、かかし、ブリキの木こり、臆病なライオンたちは、後の“オズの魔法使い”へと繋がっていくこととなる。ハッピーエンドとは言えないがとても心を打たれた。2階席で舞台からは距離が離れていたのだから演者の細かい表情は見えなかったが演者の動きや歌声や目に映る色彩からは熱気と息遣いが感じられた。樋口サンは「この物語はDEIも含んでいるわ。」と感嘆していた。固定されたテレビやネットの世界とは異なり舞台は自由に動き生きているという実感がまざまざと見て取れ別の作品も観てみたいと思った。



数回のカーテンコールを繰り返し午後4時、感動と共に閉演した。1階に集合し外に出てみると梅田の街は日も暮れ始め晩秋らしい冷たい風が吹いていた。10分ほどビルの谷間を歩き、待ってくれていた三山号に乗り込んだ。6年前、ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)で行方不明となった東弥代サン姉妹も無事に乗り込んでいた。バスは梅田を後にした。ハア～ヤレヤレだ。

帰路は阪神高速～西名阪道～名阪国道と順調に走行し往路と同じ香芝SAで休憩をとり一路伊賀へと向かった。車中では、木津エレクトが親睦旅行の締めめの挨拶でマイクを握っていた。来年7月から始まる会長年度への緊張と意気込みが漲っていた。予定通りバスは無事に見慣れた例会場に到着した。互いに「お疲れさんでした。」と声を掛け合い感動を共有した楽しい一日を終えた。最後に委員会にて旅行の企画運営、当日のお世話など親睦委員会の皆さんには厚く感謝申し上げます。



“梅田にて 四季の魔法に 胸打たれ 四十人の 絆深めし”